

## 第3回 仙台市情報モラル教育推進会議を開催（1月24日実施）

第3回情報モラル教育推進会議では、本事業の活動状況を確認・評価し、次年度の取組や方向性を確認しました。

### 【家庭部会の取組について】

- ◇ 平成29年度の活動報告
  - 1 情報モラルに関する家庭向けリーフレットを作成し、市立小中学校児童生徒の全家庭に配付
  - 2 家庭向けリーフレットの効果的な活用方法についての検討
- ◇ 今年度の家庭向けリーフレットに対する委員からの評価
  - ・「親子の対話」「家庭での対話促進」をテーマに情報が整理、焦点化されていた。
  - ・PTAフェスティバルの機会を捉えての配付、教育委員会ホームページ掲載による働き掛けが、学校・家庭での活用推進に有効であった。
- ◇ 次年度の啓発のための取組や方向性についての提言
  - ・学校とPTAが協力し、これまで発行したリーフレットを活用しながら、何度も繰り返し保護者に啓発していくことが望ましい。
  - ・これまでの方向性を維持しつつ、新たな切り口を模索しながら工夫し、継続した取組としていくことが望ましい。
- ◆ アドバイザーからの指導助言
  - ・子供たちや保護者が、テクノロジーとどのように付き合っていくのかを考えさせる機会を設けるとよい。
  - ・子供たちがトラブルに遭遇したときにどう対応すればいいのか、さらに検討が必要である。
  - ・リーフレットの活用状況、対話の内容について、アンケート形式による調査も検討してほしい。

### 【学校部会の取組について】

- ◇ 平成29年度の活動報告
  - 1 児童生徒の主体的な取組による啓発活動の構想・実施
  - 2 「気付き」を大切にした授業実践
  - 3 短時間で扱える実践の開発
- ◇ 今年度の実践に対する委員からの評価
  - ・小中連携や児童会、生徒会による啓発活動の取組により子供同士が学び合い、情報モラルに対する意識の向上と自信につながった。
  - ・授業実践を通して、児童生徒の主体的な学びが深まり、さまざまな気付きを促す効果があった。
- ◇ 今年度の実践を踏まえた改善の方向性についての提言
  - ・学校と家庭、地域との交流を通して、中学生が体験して得た知識や技能を、小学生に伝える取組を期待したい。さらに、小中連携等の取組が、継続した活動として取り組まれていくことが望ましい。
  - ・多忙な学校現場においては、短時間で扱える指導事例が有効であることから、児童生徒の実態に応じて指導できる事例を充実させることが望ましい。
- ◆ アドバイザーからの指導助言
  - ・校内の先生同士が互いの実践を把握し、指導内容を共有することで、情報モラル教育の推進を図る必要がある。
  - ・情報モラルは情報活用能力の一部であり、情報活用能力全体のカリキュラム・マネジメントを働かせながら、情報モラルを育成するといった視点が必要である。
  - ・情報モラルの指導は、単に「気を付けよう」ということではなく、情報の科学的な理解に基づいた指導が重要である。

情報社会への対応として、家庭と学校が連携しながら、情報モラルに関する知識や情報を共有するなどの具体的な取組を通して、子供たちが主体的に考え、判断し、行動できる力を育成するために、今年度の取組に対する提言や指導助言を、次年度の活動の柱として検討していくことを確認した。